

論文のテーマについて

論文演習 1

講師：伊東俊彦

参考・引用文献：斉藤孝・西岡達裕『学術論文の技法』
日本エディターズスクール出版部，2005

1. テーマの設定

- 狭いテーマが重要
 - なぜテーマを狭くすることがよいことなのか
 - テーマが大きすぎると限られた分量の中での論述では考察が浅薄になるため
 - 自分が得た知見がオリジナルなものである所以を説明できなくなるため
 - 新しい知見は極めて限られた狭い範囲とならざるをえない
 - 深く考察するためにはテーマを狭く限定せざるを得ない

2. テーマの条件

- (1) 情熱がもてる研究
 - 自分自身がその研究のために情熱を燃やすことができるもの
 - 流行の浪に乗っているかではなく、テーマを選んだ自分の根拠をはっきりと自覚できること
- (2) 必要な素材が入手可能
 - テーマを研究するために必要な素材が得られること
 - 関連する文献目録を作成し判断する
 - 文献の量ではなく、テーマに不可欠な素材が得られるかが重要
 - 絶対不可欠な素材が利用できるかの確認も必要

3. 研究者自身の条件

- 外国語のマスター
 - 外国語文献が必要なら、その外国語をマスターできていること
 - 外国語文献に関連する文献を自国語で読んで内容を把握していきながら、並行して外国語文献を読めるように訓練すること

4. テーマの修正と決定-1

- (1) テーマ選択から研究とは進まない
 - 研究を進めてみて始めて設定すべきテーマがわかる場合が多い
 - 先行研究から膨大な量の研究が存在していることに気づき悩むことも多い
- (2) テーマを制限すべきことに気付く
 - 膨大な量の蓄積の中に潜む欠陥や空白について意識するようなヒントが得られるまで読みこむ
 - そこで「思いつき（ひらめき）」が生まれ、テーマが制限できるようになる

4. テーマの修正と決定-2

- (3) 「思いつき」の重要性
 - 「思いつき」から研究者の独創性があらわれる
 - 素人は「思いつき」をそのまま放置してしまう
 - 「思いつき」を具体的な研究に移す手順を知らない
 - 専門家は「思いつき」を決まった方法で仕事の軌道にのせることができる
 - テーマについての研究努力がいろいろな疑問や着想を呼び起こす

4. テーマの修正と決定-3

- (4) 論文の作成とは
 - 研究から文章の作成と進むのではない
 - 研究しながらテーマを次々に絞っていき、その間に文章化が進められる過程が論文の作成である
- (5) テーマの決定とは
 - テーマの決定は、一度だけの決定ではなく絶えざる修正と絶えざる改訂という試行錯誤の連続なのである